

東奥日報2026年10月8日(木)付掲載

青公大生考案 ブナコ3商品



【写真上】栞にリボンを取り付ける太田さん(左)とジョシマル会員【同下】コラボグッズの(左から)ブナの栞、音楽祭バウムクエヘン、Sボウル



大学祭でも11日販売へ

青公大は東奥日報社などをつくる同音楽祭実行委員会と連携協定を結んでいる。開発にはブナの木工品「ブナコ」商品を手がけるブナコ株式会社(弘前市)が協力。学生たちは同社や実行委と協議をしながらブナコを使った「ブナの栞(税込み550円)」「Sボウル(同7700円)」「音楽祭バウムクエヘン(同9900円)」を考案した。Sボウルは同社の西目屋工場での製作体験で学友会メンバーが制作した器のデザインを採用した。この日は学友会代表の太田ひかりさん(3年)

とジョシマル会員14人が参加。同社の倉田昌直社長の指導の下、ブナの栞200個分をやすりがけし、リボンの取り付けや袋詰めを行った。太田さんは「自分たちのアイデアが形になるというなかなかできない体験ができた。栞はブナコの湾曲する特性を生かしたデザインになっているので、本に挟むことで徐々に平らになる過程を楽しんで」とアピールした。実行委は11日に同大学で開かれる大学祭に音楽祭のPRブースを出展し、完成したコラボグッズも販売する。ブースの運営スタッフとして参加するジョシマル会員の川志保子さん(74)「青森市は「音楽祭を盛り上げたい、成功させたい気持ち。イベントを通じていろいろと体験できるので楽しんで参加している」と話した。グッズは11月3日から同音楽祭有料公演の会場でも販売される。



コラボグッズ 音楽祭盛り上げ

青森 今月開幕の「青い海と森の音楽祭」に向け、青森公立大学(青森市)の学生が企画に参加したコラボグッズの仕上げ作業が2日夜、青森市の東奥日報新町ビルで行われた。完成したのは栞とボウル、ティッシュケースの3商品。参加した学生と東奥日報社の女性倶楽部「女子〇(ジョシマル)」会員は音楽祭の盛り上がり期待を込め、楽しみながら作業に当たった。(長谷川恵子)